

No. 816(1976年4月5日)



◆会員懇談会

ソ連より見た中国

東京外国語大学助教授
中嶋嶺雄氏に聞く

三月例会をさる一七日(水)、日本倶楽部において開催した。

周恩来首相死後、中国では批林批孔運動に続いて、俄かに走資派批判のキャンペーンが高まり、鄧小平第一副首相が厳しい批判の矢面に立たされてお、今後の同氏の去就が目される。一方、ソ連では五年ぶりに党大会が開かれ、向こう五カ年間の基本路線が決定されるとともに、政治局をはじめとする党の新人事が発表された。しかし、対中政策には何らの路線変更もなく、依然として厳しい中国批判が繰り返されただけであった。

今回のゲスト中嶋嶺雄氏は、さる二月、ソ連科学アカデミーの招待により、数週間にわたって訪ソ。同地でアジア、極東方面の政策プランナー、学者と懇談を重ね、精度の高い情報を収集されている。

席上、同氏はまず険悪な情勢下にある中ソ関係についてふれ、この中で、一部にポスト毛の段階で、両国が一枚岩の団結を復活するのではないかとこの憶測があるが、そういったことは当面はないであろう。また、八〇年に満期となる中ソ同盟条約については、廃棄になるのか継続になるのか、はっきりした手がかりは得られなかったが、条約の改訂による継続がひょっとするとあるかも知れない。

一方、去就が目ざされている鄧副首相について、同氏のカムバックは、その甚盤が政治局にないことから、恐らくありえないであろう。また、懸案の毛主席の後継者は上海グループの中から抜擢されるであろう、と述べた。

詳細は次号を参照されたい。

◆関西地区会員懇談会

米ソ「デタント」の終焉

本会常任理事

矢次一夫氏にきく

去る二月六日開催予定であった矢次常任理事を迎えての関西地区定例午餐会は、矢次氏が折り悪しく突然の流感におそれ、中止のやむなきに至ったが、そのお詫びも兼ね改めて矢次氏の下阪を乞い、この三月六日正午から、北区中之島の関電会館で会員懇談の午餐会を開いたもの。

ところで、その大阪もまた出席会員の関心は、どうやら例のロッキード問題に集中していたようであったが、むしろ矢次氏は、これについては私も私なりに意見もあり批判もあるが、何ぶんまだ事件は捜査段階中なことであり、政府もアメリカへ係官を派遣して関係資料の提供を求めているときでもあるから、いまここでそれを云々することはあまり適当でない、と軽かかわされ、それよりもいま、世界的な規模で注目すべき徴候が起こっているとして、①最近の米ソ関係、さらにこれに関連して②周恩来亡きの中、そして③ヨーロッパにもまた微妙な変化の起こりつつあることを、それぞれ具体的な事実を挙げながら、約一時間にわたり詳細説明された。

とくに最近の米ソ関係についてはつい先日、フォード米大統領が今後ソ連との間に「デタント」という言葉を使わぬと声明したことをとりあげ、最近におけるソ連の危大な軍備拡張、そして現に日本周辺でも例えはウラジオには一三〇隻の潜水艦があり、このうち四十何隻はおそらく原潜とみられるなど、いまや日本海は事実上の「ソ連海」ともなりつつあることを明らかにされ、しかもこれに対処すべきわが国の次期対潜哨戒機の購入が例のロッキード事件のため一時棚上げとされ、ひいては四次防の達成にも重大な支障をきたしかねない次第となり、そうしたことが度び重なって、もし仮に、日米安保条約の将来にアメリカが疑問を抱くようなことがあれば、それこそソ

連の思う壺ではなからうか。

これはなにも次期対潜哨戒機の問題だけでなく、猫も杓子も、國を挙げてロッキード、ロッキードと騒いでいるうちに、日共宮本委員長のリソチ事件も、どこかへすり替えられようとしているし、さらに国民の相当多数に、政府・自民党への重大な不信を抱かしめる一因ともなった。それを陰で喜んでいるのは、果たしてどの國であるかも、われわれは充分考えておかねばならない。

政界といわず財界といわず、いつの時代にも腐敗はある。人間は、腰から下は汚ないもので、とても神様のようにはいかぬ。ただ問題は、これらの腐敗が発生した場合、いかにこれに対応するかのはっきりした姿勢が備わっていればよいのであって、それがないうちに今日の日本の騒ぎある、とも指摘された。

なお、矢次氏の講演終了後、いつものように懇談に入り、先日米国会で行なわれていた、まるで「人民裁判」ともいべきロッキード事件の証人喚問、これに対するテレビ中継やマスコミのあり方などについても、出席会員から、きわめて痛烈な批判があった。



〔東京本部〕

◆読書会

日時 四月六日(火) 正午

場所 日本倶楽部

(丸の内・国際ビル)

書目「日本人は死んだ」

(トケイヤル著・日新報道出版部刊)

◆講師 医学博士 箱崎総一氏

◆会員懇談会

日時 四月一三日(火) 正午

場所 日本倶楽部

主題 保守政権に代わるもの

講師 民社党委員長 春日一幸氏

◆大昭会

日時 四月八日(木) 午後五時半

場所 築地「福亭」

◆三水クラブ

日時 四月一四日(水) 午後五時半

場所 築地「福亭」